

タマネギベと病の発生に注意しましょう

3月上旬の病害虫巡回調査において、べと病の発生率は50.0%と平年に比べ高い状況でした。本病原菌は、土中の卵胞子によって秋～春にたまねぎに感染します（一次感染）。その後、発病株に形成された分生子によって二次感染を繰り返し、15℃前後の気温で、雨が多いと本病の発生が多くなります。今後の1か月予報（3月9日気象庁発表）によると、気温は平年より高く、降水量は多いため、適切に防除を行い、被害の発生を防ぎましょう。



写真1 発病株



写真2 発病株に形成された分生子

【防除対策】

1. 雨水が停滞すると本病が発生しやすくなるので、排水溝（明渠）の整備や点検を行う。
2. 発病株を早期発見するため、定期的には場を見回る。発病株は速やかに抜き取り、袋等に入れ、ほ場外で適切に処分する。
3. 農薬情報（表1）を参考に、薬剤防除を行う。予防を重点にジマンダイセン水和剤等を散布し、発生が見られたらホライズンドライフロアブル等を散布する。なお、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードを参考に異なる薬剤をローテーション散布する。

表1 タマネギベと病の防除に使用する主な薬剤

(令和5（2023）年3月8日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	成分名	有効成分の総使用回数	FRACコード
Zボルドー	500倍	—	—	塩基性硫酸銅	—	M1
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	5回以内	M3
ダコニール1000	1000倍	収穫7日前まで	6回以内	T P N	6回以内	M5
シグナムWDG	1500倍	収穫7日前まで	3回以内	ピラクlostロビン	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)	M11
				ボスカリド	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)	7
ランマンフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	4回以内	21
ホライズンドライフロアブル	2500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	3回以内	27
				ファモキサドン	3回以内	11
フロンサイドSC	1000～2000倍	収穫3日前まで	5回以内	フルアジナム	7回以内(全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内)	29
ナレート水和剤	800倍	収穫14日前まで	3回以内	オキシリニック酸	5回以内	31
				有機銅	3回以内	M1
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内	40
				T P N	6回以内	M5
ザンプロDMフロアブル	1500～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	アメトクトラジン	3回以内	45
				ジメトモルフ	3回以内	40
オロディスウルトラSC	2000倍	収穫前日まで	2回以内	オキサチアピロリン	2回以内	49
				マンジプロパミド	2回以内	40

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部（@tochigi_nousei）」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になります。

